

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01669

研究課題名（和文）アートベースドヒューマニティを志向するアートライティング教育のための基盤的研究

研究課題名（英文）Aiming for Art-Based Humanity: Fundamental Research for Art Writing Education

研究代表者

直江 俊雄 (Naoe, Toshio)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：10272212

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,000,000円

研究成果の概要（和文）：高校生によるアートライティング（美術について体験したことを、言葉に書いて人に伝えること、またその文章）について、主に語彙・構文分析を通して明らかになった言語的特性を示し、コンテストで高く評価されたライティングの傾向と、表現形式の効果により生じる、体験共有への志向を示唆した。高等学校におけるアートライティング教育に関する全国調査を実施し、2005年から16年を経た変化を明らかにした。アウトリーチ活動として、高等学校と大学におけるアートライティング教育の開発と普及促進を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アートライティング教育の導入、すなわち言葉で思考し、書くことによって学習者の芸術に関する探究をどのように深めていくことができるかという課題に対して、美術教育学と言語学の連携、全国高等学校の調査、国際的な規模の教育活動促進などによって、幅広い連携による学術上ならびに教育貢献の進展が見られた。今後、国際化が一層進展していく社会の中で、多様な価値観を認めあい、より主体的に判断し生きていく力を育てる上で、芸術的価値観に基づいた人間性尊重社会の醸成への志向を追究するための一つの基盤を形成することができた。

研究成果の概要（英文）：The linguistic characteristics of high school students' art writing (writing about their experiences with art and communicating them to others in words), revealed mainly through lexical and syntactic analysis, suggest trends in writing that were highly rated in the contest and an orientation toward sharing experiences that are caused by the effect of the form of expression. A national survey on art writing education in high schools was conducted to identify changes over the past 16 years since 2005. High school and university art writing education were developed and promoted as outreach activities.

研究分野：美術教育

キーワード：アートライティング教育 アートベースドヒューマニティ 美術教育 日本語教育

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は1993年から日本と英国の美術教育を研究する中で、「心の思いを確かな技術で表現する」ことに価値を見出す日本（情緒的技術主義）に対して、「過去の文化を研究し自分の表現との関係を説明する」ことを重視する英国（知的創造主義）との文化的相違に着目してきた。それは端的には、芸術学習における言葉の役割の相違に表れている。過去に研究代表者が行った調査から、生徒が美術家の作品について文章に書く活動の実施状況を日英の美術教師に尋ねた共通質問の結果では、日本における学習頻度の低さは際立っている。

例えば表現の自由と社会的責任をどのようにとらえるか、国際化が今後一層進展していく社会の中で、多様な価値観を認め合う社会をどのように形成していくかなど、自ら判断しより主体的に生きていく力を育てるには、「寡黙で善良な職人」を育てることに適したこれまでの日本の教育を変えていく必要がある。また日本が独自に美術と言語の学習に関する新しいあり方を展開すれば、英国以外の他の国々における同種の学習への発展を支援する役割を果たすことも考えられる。

研究代表者は2005年より高校生アートライター大賞（アートに関するエッセイのコンテスト）を創設して現在まで継続し、国際的な取り組みへと発展させてきたが、約15年にわたる教育活動を研究としてさらに社会還元するためには、文化発信、国際比較、言語教育などを通じた研究の領域拡張が必要であるとの認識に至った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、芸術に関する経験について文章を執筆することを通して自身の考えを深め、他者と共有して相互理解を拓げるアートライティング教育を普及させるための条件を明らかにし、芸術を基礎として人間性を尊重する社会形成への可能性を示すことである。

本研究における学術的な問いは、大きく3つのフェーズでとらえることができる。第一のフェーズは、アートベースドヒューマニティー（芸術的価値観に基づいた人間性尊重社会の醸成）への志向である。芸術活動やその価値観を積極的に人間活動の様々な局面に関わらせることによって、人間らしい創造的で調和的な社会を目指す上で、より深い貢献ができないだろうか、という問いである。

第二のフェーズは、国際化が今後一層進展していく社会の中で、多様な価値観を認めあい、より主体的に判断し生きていく力を育てる上で、芸術活動が包含する様々な特質、例えば多様性、創造性、美と楽しさ、批評的思考、熟練などを、より効果的に教育に用いていくことはできないか、という問いである。

第三のフェーズは、アートライティング教育の導入、すなわち言葉で思考し、書くことによって学習者の芸術に関する探究をどのように深めていくことができるか、また学習の効果を引き出すための課題は何か、さらに芸術以外の領域や諸外国との連携や比較から何が明らかになるか、という問いである。

### 3. 研究の方法

#### (1) 高校生によるアートライティングの分析

2005年より収集してきた日本と諸外国の高校生によるアートライティング3,644件の内、電子

ファイル化されているものを対象として、制作体験（表現）、作品探究（鑑賞）双方の観点からその特質を考えるとともに、言語学によるテキスト分析による検証を行う。

## (2) 学校におけるアトライティング教育の調査

国内 1395 校の高等学校アンケート調査と実地調査により、アトライティング教育の実施状況や、アトライティング教育に関する教師の見解などを明らかにする。

## (3) アウトリーチ活動

高等学校における教育方法開発

高等学校におけるアトライティング教育の普及促進

大学におけるアトライティング教育実践

## 4. 研究成果

### (1) 高校生によるアトライティングの分析

高校生によるアトライティングについて、主に語彙・構文分析を通して明らかになった言語的特性を示し、美術教育におけるその可能性を検討し、論文「高校生によるアトライティングの言語的特性：指示詞と体言止めによる体験共有への志向をめぐる」として学術雑誌に投稿した。同論文では、アトライティングに関するコンテストである第7回高校生アトライター大賞（2017年開催）に応募された551編のテキストデータを主な研究対象とし、形態素解析ツールを使用して高校生の文章に出現した言語形式の計量的データを算出し、実際の用例を取り上げて質的な観察と分析を行った。その結果、コンテストで高く評価されたライティングの傾向として、指示詞と体言止めの使用に特徴があり、それはこれらの表現形式の効果により生じる、体験共有への志向を示唆するものであることを指摘した。

### (2) 学校におけるアトライティング教育の調査

2021年5月から7月、「高等学校におけるアトライティング教育に関するアンケート」を、2020年度の全国高等学校（通信制を除く）と中等教育学校を合わせた4758校の29.3%にあたる1395校を研究協力校として抽出して実施し、郵送とオンラインにより355校の有効回答を得た（回答率25.4%）。

2005年に実施した同一内容の調査結果と比較し、16年を経ての変化を明らかにした。その主な論点は下記である。

2005年の調査結果で高い実施率が示されていた、作品制作に関連するアトライティングが2021年の調査結果では更に増加した。

鑑賞に関連するアトライティングの実施率は作品制作カテゴリーほどの顕著な増加は見られなかった。

アトライティング教育の意義に関する美術教員の見解については、作品制作への効果に関する項目で2021年の調査結果の方が2005年より肯定的な回答が顕著に増加しており、これはアトライティングの実施率に関する結果とも矛盾しない。

アトライティングのエッセイコンテスト参加校の回答傾向や、調査結果に関する背景的要因について、さらなる議論を進める必要がある。

### (3) アウトリーチ活動

## 高等学校における教育方法開発

附属高等学校において開発した国語科との連携授業等、一連の実践研究成果を発表した。

## 高等学校におけるアートライティング教育の普及促進

各年度において下記の普及促進事業を開催し、世界各地から 4 年間で 800 編を超す参加があった。

2020 年度 英語エッセイコンテスト 24 か国・地域 147 編

2021 年度 日本語エッセイコンテスト 4 か国・地域 531 編

2022 年度 英語エッセイコンテスト 10 か国・地域 69 編

2023 年度 日本語エッセイコンテスト 14 か国・地域 457 編

## 大学におけるアートライティング教育実践

大学の授業におけるアートライティング教育や、視覚障害に関するジャーナルとの連携による普及活動などの成果を発表した。

## (4) 国際連携

エジプト、フィンランドの研究者との研究協力を進めたほか（共著書を準備中）、オンラインによる国際研究集会を開催し（2021 年度、12 か国 70 名参加）、韓国ならびに中国での国際学会大会での招待講演（2022 年度、2023 年度）などの成果があったほか、上記アウトリーチ活動における世界の高等学校からの参加を一層推進することができた。

## <引用文献>

直江俊雄、高等学校におけるアートライティング教育の状況-2005 年と 2021 年の全国調査から-、美術教育学研究、第 56 号、2024、177-184

直江俊雄、竹本理美、新山聖也、澤田浩子、高校生によるアートライティングの言語的特性-指示詞と体言止めによる体験共有への志向をめぐって、教科教育学コンソーシアムジャーナル、第 2 巻、2024、31-44

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 直江俊雄	4. 巻 83巻10号（964号）
2. 論文標題 アートライティング教育のすすめ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 12, 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 直江俊雄	4. 巻 巻10号（964号）
2. 論文標題 世界の若者たちの思いを伝える 高校生アートライター大賞より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 16, 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松俊介	4. 巻 巻10号（964号）
2. 論文標題 作品制作を通じた鑑賞授業の授業実践—ジュゼッペ・ペノーネ《川になる3》の鑑賞—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 20, 23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三盃亜美, 申怡娜, 澤田浩子	4. 巻 47
2. 論文標題 外国にルーツのある児童生徒への学習障害に関するアセスメントの現状の課題：学習障害が疑われる外国にルーツのある中学生一例からの考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 障害科学研究	6. 最初と最後の頁 95, 108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田浩子	4. 巻 -
2. 論文標題 中学校・高等学校における日本語学習支援と教育現場支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第33回第二言語習得研究会(JASLA) オンライン大会予稿集	6. 最初と最後の頁 71, 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 直江俊雄	4. 巻 -
2. 論文標題 コロナ禍におけるアートライティング教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Korea Art Education Association 2022 Academic Seminar with KOREA ARTS & CULTURE EDUCATION SERVICE	6. 最初と最後の頁 57, 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 直江俊雄	4. 巻 16
2. 論文標題 アート・ライティング教育 芸術を促進しているのが阻害しているのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Art Writing	6. 最初と最後の頁 7-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田奈穂子	4. 巻 16
2. 論文標題 コロナ禍における芸術支援活動と展示に関するアート・ライティング	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Art Writing	6. 最初と最後の頁 9-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田 奈穂子、宮坂慎司	4. 巻 400
2. 論文標題 名作の彩り 言葉で描く、国宝『鳥獣人物戯画』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 視覚障害 その研究と情報	6. 最初と最後の頁 24-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田奈穂子	4. 巻 43
2. 論文標題 自由ヴァルドルフ学校における鑑賞教育の諸相 京田辺シュタイナー学校の事例に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑綾乃、小松俊介	4. 巻 63
2. 論文標題 教科横断型授業実践 美術科×国語科 Artと言葉	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 筑波大学附属高等学校研究紀要	6. 最初と最後の頁 147-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 直江俊雄	4. 巻 15
2. 論文標題 クリエイティブ・アート・ライティング	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Art Writing	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takemoto Satomi; Niiyama Seiya; Sawada Hiroko	4. 巻 -
2. 論文標題 Usage of the Japanese Demonstrative ANO in Art Writing	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Virtual Language and Communication Postgraduate International Seminar Proceedings	6. 最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 直江俊雄	4. 巻 56
2. 論文標題 高等学校におけるアトライティング教育の状況－2005年と2021年の全国調査から－	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 177, 184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 直江俊雄、竹本理美、新山聖也、澤田浩子	4. 巻 2
2. 論文標題 高校生によるアトライティングの言語的特性－指示詞と体言止めによる体験共有への志向をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 教科教育学コンソーシアムジャーナル	6. 最初と最後の頁 31, 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮坂慎司、吉田奈穂子、及川奈々、市川結己、疋田真彩、遠藤花耶、宝田紗和子、半田こづえ、中川三千代	4. 巻 2023-9
2. 論文標題 名作の彩り 歌の情景を描く、北斎の拓く世界	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 視覚障害 その研究と情報	6. 最初と最後の頁 26, 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 吉田奈穂子
2. 発表標題 絵画造形クラスにおけるヴァルドルフ教育の実際
3. 学会等名 美術科教育学会兵庫大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小松俊介
2. 発表標題 高校美術・工芸における探究型授業モデルの構築 アートメダ ルを通じた実践
3. 学会等名 美術科教育学会兵庫大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 直江俊雄
2. 発表標題 コロナ禍におけるアトライティング教育
3. 学会等名 Korea Art Education Association 2022 Academic Seminar with KOREA ARTS & CULTURE EDUCATION SERVICE (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田浩子
2. 発表標題 中学校・高等学校における日本語学習支援と教育現場支援
3. 学会等名 第二言語習得研究会シンポジウム「中等教育段階の学習者の言語習得、その支援と評価」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 直江俊雄
2. 発表標題 アートベースドヒューマニティを志向するアートライティング教育のための基盤的研究 Aiming for art-based humanity: Fundamental research for art writing education
3. 学会等名 芸術支援研究会「アートライティング教育の新展開」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤田浩子
2. 発表標題 高校生によるアート・ライティングの言語学的分析 Linguistic analysis of art writings by high school students
3. 学会等名 芸術支援研究会「アートライティング教育の新展開」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小松俊介、畑 綾乃
2. 発表標題 Art × 言葉 美術と国語の教科横断的学習 Art × Language: A cross-curricular study
3. 学会等名 芸術支援研究会「アートライティング教育の新展開」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takemoto Satomi; Niiyama Seiya; Sawada Hiroko
2. 発表標題 Usage of the Japanese Demonstrative ANO in Art Writing
3. 学会等名 The Virtual Language and Communication Postgraduate International Seminar (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 グレン・クーツ
2. 発表標題 アートベースドヒューマニティ：芸術による学習を国際美術教育学会（InSEA）とともに
3. 学会等名 第46回美術科教育学会弘前大会（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 吉田奈穂子、宮坂慎司、中川三千代
2. 発表標題 大学におけるアトライティング教育の実践と意義 - 「名作の彩り」の事例から -
3. 学会等名 第46回美術科教育学会弘前大会（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小松俊介、畑綾乃
2. 発表標題 アートを通して南極とつながる - 高校国語科と美術科による絵本制作を通じた授業実践 -
3. 学会等名 第46回美術科教育学会弘前大会（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 直江俊雄
2. 発表標題 Art Educator and Art of Research: Japanese Association of Art Education 's Art Education Studies Series No.3
3. 学会等名 2023 Visual Art Education Seminar（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 直江俊雄、新聞伸也、縣拓充 若山育代、池田吏志、渡邊美香、大島賢一、竹内晋平、中村和世、村田透、笠原広一、大泉 義一、錢初薫、徐英杰、リチャード・ヒックマン	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 166
3. 書名 美術教育学 私の研究技法	

1. 著者名 石崎和宏、中村和世、直江俊雄、吉田奈穂子、他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 227
3. 書名 新・教職課程演習15	

1. 著者名 宮脇 理、畑山 未央、佐藤 昌彦、山木 朝彦、碓 勝貴、石山 正夫、伊藤 文彦、尾澤 勇、カイ・エドモンド、笠原 広一、近藤 康太、齊藤 暁子、徐 英杰、鈴木 美樹、張 月松、東條 吉峰、直江 俊雄、前村 晃、宮崎 藤吉、山口 喜雄、山田 一美、吉田 奈穂子、劉 靛琳、渡辺 邦夫、渡邊 晃一、和田 学	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 386
3. 書名 民具・民芸からデザインの未来まで	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

筑波大学芸術教育学 直江俊雄研究室 <a href="https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/">https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/</a> 高校生アトライター大賞 <a href="https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~awa/">https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~awa/</a> ART WRITING <a href="https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/pages/artwritingjournal.html">https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/pages/artwritingjournal.html</a>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	澤田 浩子 (Sawada Hiroko) (70379022)	筑波大学・人文社会系・准教授  (12102)	
研究分担者	吉田 奈穂子 (Yoshida Nahoko) (80844711)	筑波大学・芸術系・助教  (12102)	
研究分担者	森山 朋絵 (Moriyama Tomoe) (90812214)	東京藝術大学・学内共同利用施設等・講師  (12606)	
研究分担者	林 みちこ (Hayashi Michiko) (40805181)	筑波大学・芸術系・准教授  (12102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	新山 聖也 (Niiyama Seiya)		
研究協力者	竹本 理美 (Takemoto Satomi)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 New developments in research on art writing education	開催年 2021年～2021年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
エジプト	Helwan University			
フィンランド	University of Lapland			